

「第3次総合計画策定のための市民会議」の開催結果について

1. 目的

現行総合計画の検証結果及び市民からみた本市の課題の整理を踏まえて、今後10年間の本市の方針を示す第3次総合計画の策定に向けて、これからの南アルプス市をどのようなまちにしていきたいか、そのためには何が必要となるかなどについて、市民とともに検討するための市民会議を開催した。

2. 概要

(1) 日時

令和5年12月18日(月) 19:00~21:00

(2) 場所

地域防災交流センター（消防本部） 多目的ホール

(3) 参加者

南アルプス市民 60名

(4) プログラム

- ・ 10のテーマに対して、それぞれ3人~7人ずつのグループへ分かれる。
- ・ 事前に実施した市民意識調査の結果から想定しうる市民像（ペルソナ）10名から一番関心のもてる市民像（ペルソナ）を選んでいただく。
- ・ テーマごとに、各自が選んだ市民像（ペルソナ）がどのような関わりを持つことで将来の南アルプス市が発展するか議論いただく。
- ・ 議論結果を共有する。その後、グループ内で1名テーブルに残り議論の内容を説明し、残りの方は他のテーブルを見学する。
- ・ 10年後の南アルプス市の将来像をどのように表現するか考えていただく。

(5) グループ分け

本会議における10テーマ・12グループは以下の通り。

- ・ 地域コミュニティ
- ・ 防災・防犯
- ・ 福祉・介護
- ・ 子ども・子育て（A・B）
- ・ 保健・医療・健康づくり
- ・ 生涯学習・文化・スポーツ

- ・ 都市整備・まちづくり
- ・ 環境・自然
- ・ 産業・観光（A・B）
- ・ 学校教育・社会教育



図 1 市民会議の様子

(2) 防災・防犯

地域のお祭りなどのイベントを通じて若い移住者との交流機会も増え、地域の防災活動にも参加するようになってきました。スマホやなどの情報ネットワークは災害発生時に使えないことも想定される中で、地域の人と人とのつながりにより、安心感が育まれています。同時に、リタイアした方々が農家と協力し、新鮮な農作物を地元の飲食店に提供するなど、地域内での循環が活性化しています。



(3) 福祉・介護

南アルプスでは、地域の魅力として有機栽培など新しい農業がブランディングされています。地域の方々がボランティアで農作業に参加したり、農業体験を通じて質の高い教育が行われ、農業を通じたつながりが生まれることで、農業が地域にとって新たな価値をもたらしています。木材を活用したバイオマス発電などの取り組みがエネルギー自給自足を実現し、地域経済にも貢献しています。さらに、様々な施設のバリアフリーが進む中で、「ヘルプカード」の認知度が上がり、障がい者への理解が深まり、相互理解の「心のバリアフリー」が進展しています。



(4) 子ども・子育てA

高校生が地域で成功体験を積む場や機会が設けられ、将来県外に進学しても、また地域に戻ってきたいという希望が育まれています。また、将来に不安を抱える地域の経営者や農家がマーケティングやブランディングを学びスキルアップをすることで、地域の個性を生かした新たなビジネスを展開し、地域経済を活性化させています。こうした成功体験やスキルアップの場や機会は、都市部から移住してきた人たちの力を借りながら運営されており、ここで学ぶ人たちの新たなつながりをつくる機会にもなっています。そのつながりをきっかけに、地域のお祭りやボランティア活動などにも参加する新たな広がりが生まれてきました。



(5) 子ども・子育てB

地域において子育て世代が孤立しがちな中で、子どもの定期健診の機会を活用して相談や交流が行われたり、保育園や子育て支援のサービスに関する様々な子育て関連の情報が得る機会になるなど、地域の拠点（ハブ）としての役割を果たしています。教育面では、地域の特色を活かした教育の場が整備され、地域性や規模の違いなどを強みとした様々な学校づくりが行われています。こうした中から、子どもたちが自分に合った学校を選ぶことができるようになっています。



(6) 保健・医療・健康づくり

自分の趣味を通じて新たな地域とのつながりを築き、その成果をイベントなどで発表できる場や機会が設けられたことで、退職後のシニア層が充実した日々を送っています。Uターンした若者も、テレワークを活用し地域で働きながら家庭を持ち、その後子どもが生まれたことで親同士の新たなつながりを築いています。親の介護も必要な時期ですが、民生委員や地域の支援により不安も解消されています。また農家も、地域の様々な場所で農産物を販売できたことで、安定した収入が得られています。



(9) 環境・自然

ユネスコエコパークの理念を軸に、「核心地域」、「緩衝地域」、そして「移行地域」を活かしたまちづくりを推進しています。地域の豊かな自然やそこから生まれる歴史文化を活かした学校教育や社会教育、生涯学習などを通じて、多彩な体験機会が提供されています。こうした体験を通じて、子どもたちが郷土を愛し、地域に戻りたいと感じるきっかけを育んでいます。また、都市部から移住してきた人々は、エコパークや歴史文化を活かしたインバウンド観光や富裕層向けの観光関連の仕事に就き、安定した生活を営んでいます。そしてその安定が、子どもたちとの貴重な時間を支えています。自然愛好家の方々も、ユネスコエコパークを楽しみながら、自然環境の保全活動にも参加することで、地域の豊かな自然が守られています。



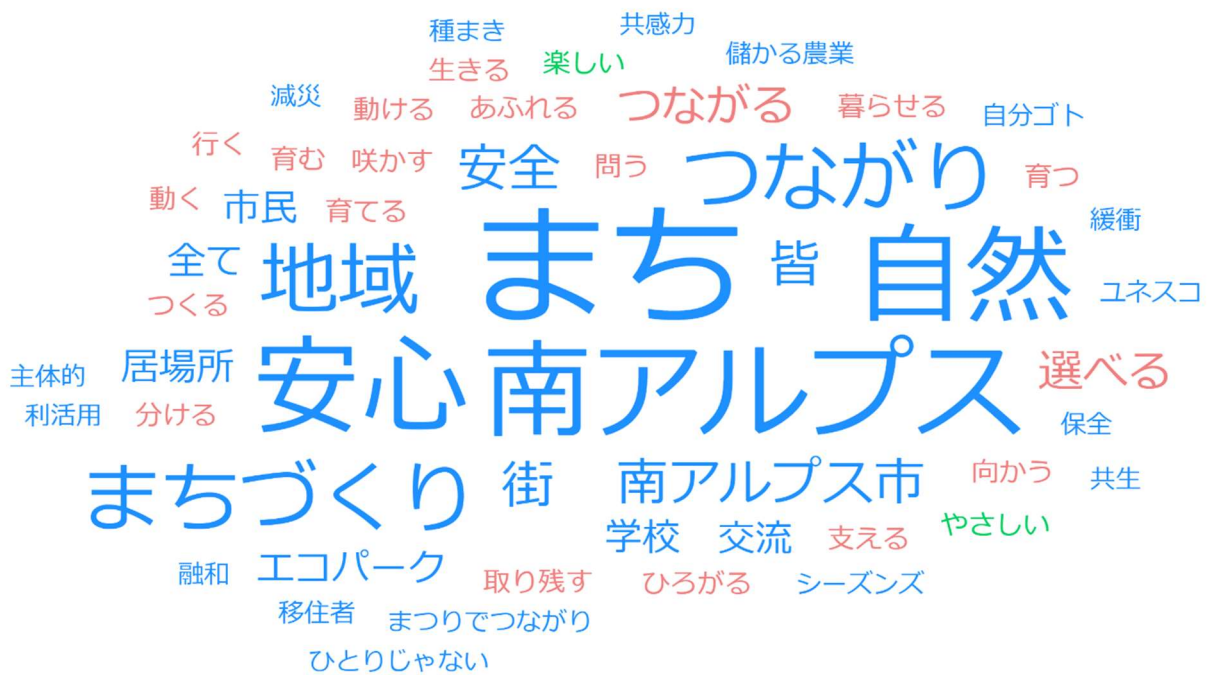
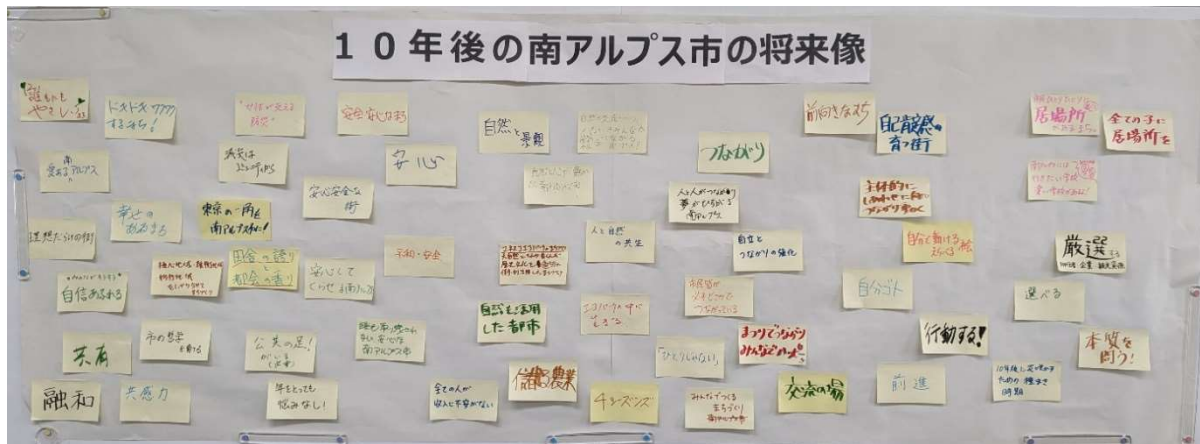
(12) 社会教育・学校教育

行き場所のない子どものための居場所として、これまでの「あるぶず教室 Wing」に加え、もっと自由に活動が出来る新たな場がいくつも生まれたことで、子どもにとっての学びの場や居場所の選択肢が増えました。それらを通じて、自治会や公民館での活動や、農家や事業者など、様々な人たちとのつながりや職業体験などが得られたことで、子どもたちにとって、「今」だけではなく「将来」への安心感が育まれ、それが進学や就職に向けた後押しとなっています。



3.2. 10年後の南アルプス市の将来像について

参加者による10年後の南アルプス市の将来像（キーワード）をテキストマイニングにより分析した結果を以下にまとめる。



出典：User Local の AI テキストマイニングによる (<https://textmining.userlocal.jp/>)

図 2 10年後の南アルプス市の将来像（出現頻度順）

4. まとめ

以上の市民会議の結果から、参加者が描く 10 年後の南アルプス市の将来像を以下の通りまとめる。

(1) 誰もが安心して暮らせる安全なまち

多様な市民が参加することで、地区で新たなイベントが開催され、市民がボランティアで参加したり、文化活動発表の機会になっています。また、新たなイベントを通じて、新旧住民がお互いに顔の見える関係が築かれ、それが市民の安心感につながっています。

(2) 地域でつながり支えあうまち

自治会活動や民生委員、社会福祉協議会、市民活動、文化活動、事業活動など、地域の様々な活動がつながり、子どもから高齢者、障がい者など誰もが生涯にわたり社会と関わり、活躍することの出来る場や機会が提供されています。

誰かが困ったときには、気軽に市の相談窓口が利用できるほか、市民がお互いに助けあい支えあう文化が醸成されています。

(3) 子育てにやさしい愛あふれるまち

働きながら安心して子育てが出来る環境が整っているのと同時に、子育てに係る様々な不安を相談し解消出来る場や機会が充実しています。それにより、子育て世代が望む子育てが出来る環境が整っています。

また、保護者に限らず地域の誰もが愛を持って子どもたちを温かく見守り支える文化が醸成されています。

(4) 魅力的な地域資源による活力のあるまち

豊かな自然や歴史文化、農業などの地域資源を最大限に活かした、付加価値の高い観光や余暇活動が提供されています。農業についても、農作物のボランティアを通じて新たな販路を拡大し、安定的な収入につながっています。また、新たに立地した企業や移住者と地元企業との連携により、新たな学びや交流の場が設けられ、そこから新たなビジネスが生まれています。

それにより、若者にとって魅力的な就職先も生まれ、将来の希望につながっています。

(5) 豊かな自然にめぐまれた快適なまち

ユネスコエコパークの理念に基づき、核心地域では豊かな生態系を保全するとともに、緩衝地域では、様々な社会経済活動を通じた持続可能な利用を推進し、移行地域では、緩衝地域を支援しながら自然環境と調和した持続可能な土地利用が行われています。

人口減少や高齢化が進む中で、新たな公共交通が子どもや高齢者、観光客などの移動手段として積極的に利用されるとともに、地域内の渋滞緩和にも寄与しています。

(6) 個性を育み歴史や文化を継承するまち

地域の歴史文化や様々な興味関心を通じた学びの場が提供され、新たなコミュニティとなっています。また、知識やスキルをもった市民が、学校等で子どもたちに学びや体験の機会を提供することで、地域の理解や郷土愛の醸成にもつながっています。

学校以外にも、様々な子どもの居場所や学ぶ場所といった地域の拠点が設けられ、自治会やボランティア、事業者などの支援による交流や体験、相談などを通じて、一人ひとりが自分らしく生きる希望が得られています。

(7) 市民とともにつくる持続可能な自治体経営

デジタル技術を活用し、行政や民間の様々な情報を効率的・効果的に配信することにより、地域がつながる新たなしくみが設けられています。また、行政サービスの効率化が進む一方で、必要に応じて対面による相談や支援などのきめ細かなサービスが行われています。

市民の意見を踏まえた行政改革を進めコスト削減を図るとともに、市民のニーズに合った行政サービスが提供されています。それにより、本市の財政状況も安定しています。

第3次総合計画策定のための市民会議のまとめ
(10年後の南アルプス市の将来像)

